

イネ科対象茎葉処理剤キザロホップエチル水和剤 (商品名：ポルトフロアブル)の効果について

古川農業試験場

1 取り上げた理由

大豆栽培において既存のイネ科対象の茎葉処理剤は、使用時期がイネ科雑草3～5葉期と、雑草発生後早い段階で処理しなければならず、梅雨期間の適期散布は難しい。そこで、使用期間の長いキザロホップエチル水和剤(商品名：ポルトフロアブル)について、その除草効果と大豆生育への影響について検討した結果、高い実用性が認められたので普及情報とする。

2 参考資料

- 1) 処理時期：イネ科雑草(ノビエ)の3～8葉期 大豆収穫60日前まで
 使用方法：雑草茎葉散布
 総使用回数：1回 使用量：200～300mL/10a 希釈水量：100L/10a

2) 防除効果

3～8葉期の畑地一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)に効果が高い。

表. 1 残草調査結果(乾物重と無除草区対比)

試験区	比 I	
	重量(g)	比率(%)
無処理	85.8	100
200mL	0.0	0
300mL	0.5	t

t:trace (m²当たり)

3) 剤の特性等

- a 有効成分：キザロホップエチル〔フェノキシ酸系、B s 類〕・・・7.0%
 b・イネ科雑草のみ選択的に殺草する。
 ・効果の発現が早く、葉令のすすんだイネ科雑草に対しても安定した効果を示す。
 ・有効成分が短時間に植物体内に吸収されるため、雑草葉面の散布液が乾燥すれば、その後の天候変化による影響は受けにくい。
 ・土壌に強く吸着され、また、土壌中で速やかに分解されるため、後作物への影響はない。
 ・粘性が低いため散布液の調整が容易である。

3 利活用の留意点

- 1) 大豆の葉に褐点を生ずることがあるが、その後の生育に影響はない。
 2) イネ科雑草を完全に枯殺するには4～6日を要する。
 3) 展着剤は加用しない。
 4) 散布前後の気象が低温、寡照であると生育抑制をおこす恐れがあるので注意する。

(問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 1) 雑草防除に関する試験 (2) 畑雑草管理技術 平成17年度
2) 参考データ

表. 2 薬剤処理前の雑草発生状況

	散布時 大豆葉齢	雑草発生状況
無処理	5~6	ノビエ (中発生:4~8L)
200mL		
300mL		

表. 3 薬害・収量調査

試験区	生育に与える影響			収量	
	症 状	程 度	回 復	kg/10a	比率(%)
完全除草	-	-	-	293	100
200mL	赤褐色斑点	微	早い	292	100
300mL	赤褐色斑点	微	早い	299	102

- 3) 発表論文等 なし